

ハマ街ビト

横浜には、独自のサービスや技術の強みを生かした魅力的な企業、団体が多く存在しています。このコーナーでは、LTR独自の視点で他社の参考になる先駆的な取り組みや、新たな挑戦をする企業とヒトをピックアップ。今回は、多様な人材が活躍できる組織づくり“ダイバーシティマネジメント”に取り組む企業をご紹介します。

途上国への技能移転による国際協力が目的である「外国人技能実習制度」。しかし、外国人労働者なしでは社会が成り立たない中で、いつの間にか趣旨がすり替わり、人手不足を補うための制度となって、多くの改善すべき問題点を抱えています。このような状況を問題視して、異国の地で頑張る実習生をサポートし、気持ちよく働くことのできる環境づくりに奔走している企業があります。横須賀・横浜エリアを中心に介護事業を展開する株式会社スマイルです。実習生を通じて異文化への相互理解や多様性を認め合うことは、専門的な知識・技術だけでなく、円滑な人間関係を築くためのヒューマンスキルが求められる介護の現場において、質の高いサービスへとつながります。今回の「ハマ街ビト」では、そんな外国人材の受け入れにあたっての準備、心構えなどを中心にお聞きしたインタビュー記事をお届けします。

(行政書士 藤森純一)

介護事業者 株式会社スマイル

～礼拝所を併設したインドネシアカフェ～「HARAPAN」

外国人材を受け入れるためには？

今回取材場所として訪れたのは、株式会社スマイルが運営するインドネシアカフェ「HARAPAN」(「HARAPAN」はインドネシア語で「希望」という意味)。インドネシアの食材や雑貨も購入できるほか、イスラム教の礼拝室も併設されています。さっそく株式会社スマイル 常務取締役の嘉山仁(かやま・じん)さんに、こちらをオープンした経緯から伺いました。



株式会社スマイル常務取締役 嘉山仁さん

【嘉山】2020年2月、インドネシアから介護スタッフとして技能実習生を迎えました。そして、2年以上が経った今は「長く働いてもらいたい」と願う貴重な人材になっています。そのためには、今の環境が“快適な場所”でなければなりません。そこで真っ先に浮かんだのが、「食」と「信仰」のことでした。——インドネシアだとイスラム教徒の方が多いのでしょうか？

【嘉山】そうですね。現在の技能実習生のうち、大半がイスラム教徒です。そのため、食に関しては「ハラールフード」(豚肉とアルコールが禁止)で、1日に5回礼拝の義務があるなど独自の慣習があります。

——それで、こちらのスペースを作ろうと？

【嘉山】はい。アルコールが禁止となると、日本で主に市販されている調味料も使えません。残念ながら横須賀市内にはインドネシア料理店がなく、現地の食材やハラールフードを扱う店も数えるほど。だから、祖国の食材や商品が気軽に手に入り、簡単な軽食や喫茶などインドネシアの味が楽しめる場所を考えました。同時に求められていると感じたのは、安心して礼拝ができる場所。そこで礼拝室を併設したカフェスペースを作ろうと思いました。今後はここを拠点として人が集まり、インドネシア人同士はもちろん、日本人との交流の場になればいいなと！



温かみを感じる「HARAPAN」外観



取材日は、近隣に住む方がカフェやランチを楽しんでいた

——人が自然につながる場所があるのはいいですね！

【嘉山】そうなんです。初めて訪れた国で初めての仕事をする——慣れない環境での毎日は、私たちが想像する以上に大変なはず。だからこそ、周囲のサポートが必要だと感じています。



日本人にも人気！インドネシアの味が楽しめる調味料



お祈りのタイミングが分かる時計の設置も！